

1. 当日の流れ

(ア) 予行演習

- ① 競技スケジュールを見て、対象となる部の予行演習に参加する

(イ) 競技

- ① 競技スケジュール表を参照

2. 必要な人員

(ア) カメラマン 1名/競技団体

- ① 複数チームが出場する競技団体においても、カメラマンは全チームの競技を通して1名であることが望ましい。もし複数の場合は、予行演習において、カメラマン全員が一度に参加してレクチャーを受けること

- ② チームメンバーでなくてよい

- ③ 撮影だけでなく、ホストと競技者の間の連絡役を担う

(イ) 競技者 1名以上/チーム

- ① 競技者は、必ずチームメンバーであること

(ウ) メジャー係 2名ほど/チーム

- ① 複数チームが出場する競技団体において、メジャー係は全チームを通して共通であることが望ましい。チームごとに異なる場合は、予行演習において全員が一度に参加してレクチャーを受けること

- ② チームメンバーでなくてよい。競技者と兼ねてもよい

3. 用意するもの（予行演習、競技ともに）

(ア) カメラ付き携帯端末（スマホなど）

- ① 充電を忘れずに

- ② できればイヤホンも

(イ) Zoom の接続環境（Zoom ミーティングアドレスは代表者にメールで送付）

(ウ) メジャー/巻尺（4m 以上）

(エ) 競技コース

(オ) コースのまわりを歩き回るスペース

4. 競技会場

(ア) 別紙の典型的な競技会場の例を参考のこと

(イ) 特に Zoom の音声はハウリングなどしないように注意する

5. 「予行演習」の方法（対象となる部で競技するすべての競技団体）

(ア) 競技コース1セットを準備

(イ) 指定時刻に、指定の Zoom ミーティング ID に接続する（全員、ビデオ on、ミュート on）

(ウ) ホストに、ビデオと音声が届くことを、全てのカメラマンと確認する

- ① 1名ずつ、ミュート off. それ以外の人はスピーカーの音量を0にするかイヤホン使用

(エ) ホストから競技の流れとカメラマンのカメラワーク、メジャー係の計測法とその撮影方法などを説明

(オ) カメラマンの代表者1名が、「競技」を1回だけ予行演習する。他のカメラマンはそれを見て覚える

6. 「競技」の方法（参加チームごと）

(ア) カメラマンのみ Zoom のビデオ on、ミュート off にする

(イ) 競技前確認

- ① 司会進行が競技チーム名などをコールをしたら開始

- ② メジャー係が、コース、スタートエリア、ゴールエリア、ピース置き場、台紙エリアの幅と長さの2辺に順にメジャーをあて、カメラマンはそれぞれのメジャーの両端を順に大きく写し出して、審判と記録に伝える

- ③ カメラマンはコース全体をゆっくり映して、エリアの配置位置が規定通りであることを、審判と記録に伝える
- ④ 競技者はピースを台紙にはめ、カメラマンはピースと台紙の隙間がわかるように撮影し、審判と記録に伝える
- ⑤ カメラマンは台紙全体をゆっくり映して、台紙が台紙エリアの内側にあること、台紙に加工がされていないことを、審判と記録に伝える
- ⑥ 競技者は台紙に力を加えて、台紙が固定されていることを示し、カメラマンはそれを撮影して、審判と記録に伝える
- ⑦ カメラマンと審判は、競技中のロボットの動きの確認と、それを漏れなく撮影するためのカメラ位置や動きなど（カメラワーク）を確認する
- ⑧ 以上が5分間で終わるようにお互いに協力する

(ウ) ロボットの説明

- ① 競技者はロボットの説明を1分程度で行う。アイデア、工夫したところ、どんな動きをするか、目標など。カメラマンはそれを撮影して配信する。
- ② 司会進行は時間をみながら進行

(エ) スタート時確認

- ① 競技者はピースをピース置き場の内側に置き、カメラマンはその様子を撮影して、審判と記録に伝える
- ② 競技者はロボットをスタートエリアの内側に置き、カメラマンはその様子を撮影して、審判と記録に伝える
- ③ 以上が1分間で終わるようにお互いに協力する

(オ) 競技

- ① カメラマンは、審判のスタートの合図を、競技者に伝える
- ② 競技者はロボットをスタートさせる
- ③ カメラマンはコースのまわりを移動しながら、ロボットの動作を漏れなく撮影して、審判と記録係に伝える
- ④ カメラマンは審判や審査員からの指示を競技者に伝える
- ⑤ 競技終了となったら、一旦、カメラマンはビデオと音声を off にする
- ⑥ 競技の制限時間は4分間

(カ) 競技者コメント

- ① 競技成績がまとまったら、カメラマンはビデオと音声を on にする
- ② 競技者は、競技について1分程度でコメントする。思い通りにできたか、うまくできたところ、課題だったところなど。最後に視聴者への謝意を述べる
- ③ 司会進行は時間をみながら進行
- ④ 終わったら、カメラマンはビデオと音声を off にする

(キ) 次のチームへ

- ① 司会進行は謝意のべ、次の競技に準備を促す

7. 問い合わせ

(ア) 質問やコメントは以下の窓口まで

室蘭工業大学 教育研究1号館B棟3階 B-312
 ロボット・トライアスロン運営委員会事務局 花島直彦
 E-mail: info@robot-triathlon.org

以上